

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175700244		
法人名	医療法人 緑光会 野宮病院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ふれ愛の家		
所在地	岩見沢市5条東18丁目29番地 (電話) 0126-33-5577		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年9月12日	評価確定日	平成19年10月9日

## 【情報提供票より】 (19年9月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 22人, 非常勤 0人, 常勤換算	22人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

### (4) 利用者の概要 (9月12日現在)

利用者人数	26名	男性 8名	女性 18名
要介護1	8	要介護2	6
要介護3	9	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85.3歳	最低 67歳	最高 100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	倉増病院 野宮病院 館山歯科東町医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人緑光会野宮病院が事業主体の「ふれ愛の家」は、入居される人がこれまで築いてきた自分らしい生き方や暮らしを変えることなく、ゆったりと自由に過ごせることが重要と考えています。考え方はケアサービスの中で実践され利用者はのびのびとした自由な生活を送りながら、職員を含め大家族としていきいきと過ごしています。365日24時間の医療連携や認知症状の進行緩和、潜在能力の引き出しなどについて力を注ぎ、医療法人として持つ専門的長所を運営体制やケアサービスにつなげています。ゆったりとしたホーム内や屋外600坪の広い芝生、畑、ウッドデッキなどもハード面として特徴的であり、職員の益々のレベルアップとともに質の高いケアサービスがさらに展開されることが期待されます。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については21の改善課題がありましたが、ホーム職員が一丸となり取り組み、19の項目について改善されています。「地域の人達との交流の促進」、「ホーム機能の地域への還元」については法人と連携を図りながら前向きな姿勢で取り組みに着手しています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が評価の意義を理解しており、ユニット及び全体ミーティングを行わない項目のねらいを掘り下げながら自己評価を実施しています。改善課題が明確になり、より良いサービスへと結びつけるための検討が始まっています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はまだ開催されていません。現在は会議メンバーの決定など、開催に向けて手続きを整えている段階です。遅くとも11月までには開催する予定で、提供しているサービス内容を明らかにしつつ、地域に開かれたサービスや質の確保、地域との連携を目指して行こうとする姿勢が伺われました。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>内部・外部の苦情相談機関を明示して、家族からの指摘、苦情について受け入れる体制を整えています。家族が訪問時などの際、気軽に意見を言ってもらえるよう、会話を大事にしてコミュニケーションを図るよう努めています。家族会設置の検討が始まることや運営推進会議の家族の参加などにより意見交換が活発になり、運営体制への家族の意見が反映されていくことを期待します。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の人々との連携は現状においてほとんど図られていません。利用者が明るく暮らしている姿はありながらも、地域の方々と気軽に相互交流する場面がなかなか確保できない状況です。地域密着型サービスの重要性を認識し、事業所がより良い方向性を具体的に模索しながら取り組み始めていますので今後に期待します。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人は3つの理念を掲げており、開設当初より、地域密着型サービスの必要性を認識し、「地域統合」を三つ目の理念として明確に打ちだしている。事業所は、法人理念の現状に即した具現化を目指しており、新しいホームパンフレットを手配中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、毎月の全体・ユニットミーティングで話し合い共有の体制ができており、すでに二つの柱については、日々実践され取り組まれている。もう一つの理念である「地域統合」については実現に向けて模索中である。	○	理念共有の体制はできているので、地域密着型サービスの具現化に向けて、「地域統合」の理念の意義や役割について全職員でさらに理解を深めながら取り組まれて行かれることを期待する。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設から4年経過するが、自治会への加入や地域活動の参加などによる地元の人々との交流は図られていない。利用者が地域で暮らし続けるための基盤づくりについて、法人本部と連携を図りながらの検討段階にある。	○	近隣住民へは、ホーム夏祭りへお誘いの声掛けはされているが、気軽に参加していただけるような関係性には至っていない。ホームの啓発活動の再点検や自治会への加入を実現され、地元の人々との相互交流が図られることを期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は、評価のねらいや活用法を理解し職員に周知しており、自己評価は全体ミーティングやユニットミーティングで話し合わせ実施している。前回の外部評価での改善点については、具体的な方策のもと努力され、ほとんどが改善されている。		

岩見沢市 グループホーム ふれ愛の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19年9月現時点において運営推進会議は実質的にまだ開催されていない。会議メンバーの構成や手続きなど体制を整えている段階であり、遅くとも今年11月までには開催する予定である。	○	11月までには開催される予定であることから、運営推進会議の意義やメリットを十分理解されながら、サービス評価と連携した取り組みやメンバーとの活発な意見交換などを通じてさらなる質の確保を図られることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営体制やサービスについて、市の担当者からの指導やホームから相談するなどの連携を図り、情報の提供や課題解決に向けて取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個別に利用者の近況を手紙形式で書き金銭出納とともに報告している。また、2カ月に一度、行事やイベントの写真や暮らしぶりのエピソードを掲載した「ふれ愛便り」を作成し送付している。今後は職員の人事異動で退職者についても報告をする予定でいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームを訪問した際など、会話の中で気軽に意見や不満を表してもらえるよう心掛けている。ホーム内、外部に苦情相談窓口を設けてサービスや運営に反映させる仕組みがある。また、ホームでは家族会設立の検討が始まり、立ち上げに向け相談中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるため、管理者は職員に対して運営体制やサービス方針を十分理解してもらう努力をしており、馴染みの職員による支援の継続に努めている。やむを得ないユニット間の移動に備えて、普段よりほかのユニットを訪れて顔馴染みの関係作りを行なうなど配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、職員個々に応じスタッフ研修及び講習会への参加を段階的、計画的に実施し、職員の資質を高めている。内部研修では、入職時の3ヵ月間採用時研修をはじめ、ビデオ教材を活用した技術や知識を習得する学習会を行ない学びの機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者研修時やインターネットを利用して、ほかのホーム管理者との交流を図っているが、ホーム全体での同業者との交流について実施はされていない。現在、相互訪問などを通じてほかホームとの連携、交流する機会が持てるよう取り組みの予定がある。	○	北海道グループホーム協議会空知ブロックに加入しており、組織的な参加交流については取り組まれている。今後はさらなる同業者との協働により連携や交流が実際され、サービスの質向上に取り組まれることを期待したい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用者は病院、特別養護老人ホーム、在宅からの入居と幅広く、いずれの場合も本人や家族にホームの実情を説明し、ホーム見学をお願いしている。ほかの利用者や職員との会話や生活環境、雰囲気慣れ、馴染みながらの利用開始に努め、無理強いせず納得のうえでの支援を行なっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の立場で考え、会話を大切にする支援が行なわれている。調理や畑仕事など生活の技や、物を大事にする生活文化などを教えてもらいながら、実際の係わりが一方的にならないよう、暮らしの中でお互いを分かち合える関係の構築に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のその時その場における一瞬の願い、望みであっても大切にし、ゆっくりと時間をかけて聞き意向に添うように努めている。自室で給湯しお茶を入れるための道具の支援など日常生活上の支援をはじめ、行事でのパーテームニューの希望も利用者の意向を伺っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者のアイデアや本人・家族の意向を踏まえた計画案は、全体ミーティングで見直し追加などの協議を行ない、ケアマネージャーへフィードバックされ、利用者主体の暮らしを反映させた介護計画をチームとして作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期目標6ヵ月、短期3ヵ月の期間を設定し、基本3ヵ月で見直され、モニタリングを実施している。医師や看護師の診察をもとに健康状態の変化による見直しや生活状況を観察しながら、必要に応じた随時の見直しが行なわれている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期検診のための通院は家族対応を原則としているが、家族が遠方居住の場合や急病や怪我の場合についてはホームで対応している。外出時の送迎は、ホームとして支援している。今後独自のサービスとして、庭園が展望できる浴室を完備した同系列の特別養護老人ホームでの入浴支援を予定している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する法人病院の医師や看護師による定期往診や協力医療機関との連携体制を整え随時、適切な医療が受けられるよう支援を図っている。入居前からの掛り付け医への受診も本人や家族の希望で継続され、受診内容は家族から情報伝達されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応について、入居時に家族と話し合いを行ない、法人病院との連携により24時間の連絡体制を確保して家族の理解を得ている。最近、「看取りに関する指針」が作成され、看取り介護についての同意書も合わせて文章化されており、対応指針について家族への説明が今後実施される予定である。		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーなどに配慮した声掛けを行なうとともに、守秘義務の徹底を期している。なお、個人情報の第三者提供に関する同意書を交わり、法令遵守を貫いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそその一日の流れはあるが、今日をどのように過ごしたいかを会話や表情により把握し、希望に沿って柔軟に対応している。医師の指導や健康観察のもと、喫煙、おやつ、夕食時の飲酒や入浴時間など利用者の意向を尊重し支援を行なっている。		

岩見沢市 グループホーム ふれ愛の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	寿司バーの再現、レストラン風のオーダーメニューや菜園での収穫を献立に取り入れるなど、食に対しての工夫が見られる。また、買物から後片付けまで食事一連の流れを利用者の力量や希望に応じて役割分担している。職員の見守りの中、杖を使用している場合でもほかの利用者の助けを得ながらコップ運びをしてお礼を言い合う姿が印象的であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日の設定はある。時間帯は本人の希望に応じ対応している。ホームには1人用と3~4人用中型浴槽を完備しており、希望の浴室へ自身の桶や着替えを持ち銭湯気分ですれ違って仲良く入浴される方もいる。拒否の方は無理強いをせずほかの方法により清潔保持に努めており、その場合でも最低2回は入浴が実施されている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活力を維持するため、利用者の有する力を見極めながら家事仕事の分担に力を入れており、家庭と同様の生活が再現できるよう支援している。生け花や大工仕事など入居前からの趣味も継続して行なえるよう場面作りや、利用者お気に入りのビンゴ、花札、運動会などを催し、楽しみごとや気晴らしに繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調、気分配慮し買い物や散歩に誘うが外出拒否の方が多く、自身の目的がある場合は職員と個別に外出を楽しむ方もいる。戸外へ出る大切さを職員は認識しており、唯一人気の寿司店の外食や広い芝や菜園と一体になったウッドデッキでの茶菓子のひと時、前庭での昼食・焼肉など日光浴を兼ねた五感刺激の場面作りに努めているのが伺われる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない暮らしの大切さを認識しており、ユニット玄関の施錠はなく、自由な暮らしを支援している。ホーム玄関は防犯上の理由から夜間帯の19時~7時まで施錠している。居室は入居者が就寝時に内側から希望で掛けることはあるが、夜間見回りの際は開錠して安否確認を行なっている。		

岩見沢市 グループホーム ふれ愛の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日勤帯・夜勤帯を想定し、ホーム独自と消防署の指導のもとで避難誘導や初期消火などの実践的訓練を実施しているが、地域の支援体制の整備については取り組まれていない。災害に備えて飲料水の備蓄をしている。	○	昼夜想定の実践的訓練は実施されているので、今後は地域住民の支援体制を整備し、消防署・警察署・地域との連携を図り、災害対策に取り組まれることを期待する。また、食料なども備蓄品に追加されることが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を作成して、水分摂取量の把握を職員全員で共有し、状況に応じた声掛けや水分確保ができるよう支援している。週4日は、栄養士の資格を有する職員が一日のおおよそのカロリー、栄養バランスを専門的な観点で点検をしながら献立を作成している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチン式の広々としたリビングダイニング型居間には、ソファコーナーや和の空間、セミパブリックスペースが確保され、一人ひとりがゆったりと気兼ねなく寛げるよう配慮されており、トイレの自動点灯装置や浴室のベンチなど使いやすく設備されている。利用者と職員共同作成のちぎり絵や装飾品は季節感や生活感をかもし出さうるおいある居住空間作りに工夫をこらしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具のほか、家族や本人の意向によりミニ冷蔵庫や電気ポット、パソコンなど好みのものを持ち込まれ、利用者の生活スタイルに合わせた居室作りの支援を行なっている。出窓を利用したスペースには、利用者の趣味や思い出の品々などで思い思いに飾り付けがされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。